

◆令和7年度園方針・自己の重点目標

1. 学園の建学の精神 「実学教育」と「人格の陶冶」
2. 学園の教育の目的 人に 愛される人、信頼される人、尊敬される人 を育成することにある
3. 本園の教育目標 やさしさや思いやりのあるよりよい人間関係の育成 あいさつを中心とした基本的生活習慣の育成
4. 本園の三大方針(体・徳・智) 体をきたえる「いきいき」活動 心をみがく「のびのび」活動 智をほりおこす「わくわく」活動
5. 本年度の園経営方針 ①ひとりひとりの園児を大切にする幼稚園 ②信頼され、魅力ある幼稚園 ③子どもたちを中心に保護者・教職員がひとつになる幼稚園
6. 本年度の重点目標 ①わくわくして明日も行きたくなる園をめざして ②「自ら考え、表現し、つながる子」の育成 ③「共に学び、共に創る」研修文化の充実 ④私立園の教職員としての誇りと使命 ⑤共働き家庭の増加に対応した園の役割の的確な把握

◆項目別評価シート評価基準

評価基準 (9・12・3月打ち込み)	達 成 状 況	評価基準
5	目標を上回って達成した。	A
4	目標どおりに達成した。	B
3	取り組みを進めたが、目標を達成するには至らなかった。	C
2	取り組んだが、改善の余地を残した。	D
1	ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった。	E

◆項目別評価シート

Ⅰ 保育の計画性	達成状況
	まとめ
①園の教育理念や教育方針を理解し、共感している。	4.1
②指導計画は、幼児の興味や関心、生活経験などを考慮し作成している。	4.2
③行事への取り組みは、幼児の負担などを考慮し計画的に行っている。	4
④指導計画に基づいて幼児が主体的に関われるような、安全で清潔感のある環境構成をしている。	4.4
⑤幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	4.5
⑥人間関係力を育成するために必要な保育環境作りを計画的に行っている。	4.3
⑦評価・反省に基づき、次の保育と計画に生かせるように行っている。	4.2
●「保育の計画性」について、評価と課題	
・子ども達が主体的に活動できるよう、さまざまな興味の幅が広がるようにきっかけ作りをしながら保育を計画し実行できた。 附属ならではの異年齢との関わりは、今後も重要視しながら人との関わりを大事に育んでいく。 今後も日々の教員間の話し合いや共通理解を深めながら、保育の向上につなげていけるように努める。	
Ⅱ 保育のあり方、幼児への対応	到達状況
	まとめ
①登園時は視診を大切にし、幼児の体調や様子を観察している。	4.5
②体調が悪そうなとき、怪我をしたときなど適切な処置を行い、家庭へ連絡している。	4.5
③幼児の思いやサインを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している。	4.2
④個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解している。	4
⑤幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	4.3
⑥”ひとり一人”と”みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	4.2
⑦幼児の自尊感情を育てるよう、言葉がけや対応をしている。	4.2
●「保育のあり方、幼児への対応」について、評価と課題	
・一人ひとりに合った声掛けや関わりを大事に積み重ねてきた。課題としては、集団としての取り組みの意義を子ども自身が感じられるような、よりよいクラス経営の追求が求められる。	
Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正	到達状況
	まとめ
①保育に携わるものとして、専門知識や技能を身につけている。	4.1
②保護者と信頼関係をつくることに努めている。	4.2
③幼児と保護者との対応には公平さを欠かさないようにしている。	4.5
④あいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちなどを言葉に表している。	4.7
⑤他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる。	4
⑥必要な事柄は園長・教頭及び学年主任に報告、連絡、相談をしている。	4.3
⑦園務分掌による仕事を理解し、責任を持って実行している。	4.3
●「保育者としての資質や能力・良識・適正」について、評価と課題	

・明るい挨拶や声掛けが園の活気や子どもの姿に表れている。また保護者の声に耳を傾けながら、信頼関係を築いていくとしているが、家庭と子どもの育ちを同じ視点に立ち、今どのように関わり、目標にするのかは、今後の課題でもある。

IV 情報の発信と受信	到達状況
	まとめ
①ひとり一人の幼児について、家庭の様子や養育方針などを把握している。	4
②クラスだよりブログなどで、保育実践の内容や意図、クラスの様子などを分かりやすく伝えている。	4.4
③個々の幼児の様子は、直接保護者と話をしたり電話をしたりして伝えている。	4.4
④保護者からの要望や意見などは、園長・副園長及び教頭・学年主任などに報告や相談をしている	4.3

●「情報の発信と受信」について、評価と課題

・ブログの配信は全職員で輪番に行うことで、さまざまな姿を発信できた。また今年度より、保護者のご理解を得ながらInstagramも発信し、園での日常の様子をより知ることができたと喜んでいただけているので、今後もこまめに配信していく。保護者からのご意見等に対して、教員一人ひとりの対応力は今後高めていくことが課題である。

V 研修・研究への意欲・態度	到達状況
	まとめ
①研修会や研究会には自己課題を持って参加し、自分なりの考えをまとめている。	4.1
②自分の保育については自己課題を持って計画と反省を行っている。	4
③お互いの保育について検討し、評価・反省を加え、自らの保育につなげている。	4.3
④小学校の教育内容について理解するように努めている。	3.9
⑤幼児や教育・保育・社会情勢などの情報を日頃から得ようとしている。	4
⑥近畿大学学園の一員としての自覚を持って行動している。	4.2
⑦保育、その他の場面に於いても積極的に園児募集にかかわっている。	4

●「研修・研究への意欲・態度」について、評価と課題

・外部の研修に参加しながら、保育の在り方や保育者の意図と子どもの姿のずれに気づけるよう、園内研修も重ねながら、日々の共有も丁寧に行っている。今後も、積極的に研修に参加し、学びを実践しながら保育の質の向上に努める。また園児募集に関しては、園を訪ねてもらえるように見学等を増やししながら、今後も積極的に広報活動をしていく。

◆園評価委員会から

・附属中学高等学校教頭、附属小学校保教会同窓会会長、附属幼稚園保教会会長、校長・園長、小学校教頭、幼稚園教頭が参加。
 ・幼稚園と保護者が同じ方向性を持って子どもたちを育てる環境を整えることが、保護者や子どもたちが満足して通える園となることを確認した。
 ・デジタルとアナログのそれぞれの良さを融合させていくこと、内部進学や大学の設備の活用など、附属の強みを生かした教育活動を行っていくべき。
 ・園児募集については、附属中高も含め、小学校・幼稚園共に、今後苦境に立たされる可能性は大きい。しかし、実際に通う子供たちの姿を見てもらい、ふれあってもらうことで幼稚園の良さを伝えられるはず。まず目の前の子供たちを大切にする。